

俣郷

～須木中校歌より～

須木中学校通信 第32号

平成28年3月1日発行 文責 寺原

確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち、
未来をたくましく生き抜く生徒の育成

振り返りを前進の糧に

いよいよ三月になりました。日中の暖かさで春を感じるいい季節です。三年生は県立一般入試に向けて、最後の追い込みです。みんなが応援したいものです。何号か前に、今年は何年だと書きました。ところでなぜ閏年が必要なのでしょう。地球が太陽の回りを一周する期間を一年といい、一年を三百六十五日としていますね。実は、地球が太陽の回りを一周するのは、三百六十五日と五時間四十八分四十六秒くらいかかるそうです。このズレが四年間分積み重なると、ちょうど一日分ぐらいいなくなり、四年に一回、一日多い日をつくって調整し、次の四年間に備えるんです。私達も同じではないでしょうか。ものごとをやっていくとき、計画通りに進まないことの方が多くと思います。やり残しや不十分なものがありまします。つまり、計画と実行の間には、必ずズレが生じてきます。しかし、中途半端なまま、次々に事を進めるといふのはどうでしょう。どこかで、やり残しなどをしつかり終わらせ、どこかで、ゼロにして、次に備えることが必要だと思いません。小さなズレが積み重なると取り戻すのが、多くの時間と努力が必要になってきます。本当は、ズレが生じたときに、もう一踏ん張りして、それを解消するのが理想ですが、そう簡単にはいかなのが人間の常です。だからこそ、年度が終わる三月は、「自分やっつけてきたことを振り返り、四月から始める新年度は、自分にとってどんな年にしなければならぬのか。」をしつかり考えることが必要です。三月とはまさにそんな月です。

《家庭教育学級閉級式～いろいろな取組がありました》

2月17日に家庭教育学級閉級式が、須木のふるさとセンターで行われました。研修会では、私の方で「あいさつの心」と題して、境野さんの本の内容を紹介しながら、私が日頃から考えている、言葉の大切さについて、特にあいさつの面から話をさせていただきました。やはり、人前で話すのは難しいなあと、つくづく感じました。

後半は閉級式で、年間の事業報告と会計報告がありました。バラエティに富んだ9回の研修が行われ、充実した研修会になったようです。特に、これからの須木地区の学校の在り方を考える上で、重要な情報となる講話や視察研修もありました。

学級長の蒲生さん、今重さん、副学級長の中原さん、石川さん大変お疲れ様でした。

《「つながる」ということ～水永さんのメッセージ》

先日の立志式でお話をいただきました、水永様がある機関誌に次のような文章を寄稿しておられました。やや長いので省略した部分もありますが紹介します。

「つながる」ということ

日向市キャリア教育支援センター長 水永 正憲

(前略)今年、諸塚中学校と須木中学校の立志式に招かれて講話に行った。(中略)これまでも中山間地域にある小規模校には何度も行ったが、どこも例外なく素晴らしい。子供たちが規律正しく、挨拶も清々しい。学校と保護者との密接な協働ぶりも目に見えてよく分かる。

須木中では、小学5年生と中学2年生の合同立志式だった。いずれも今年から最上級生となる年だ。双方にとって刺激になるだろうと思った。小学5年生にとっては上級生ばかりの前で意見を発表するという緊張感は相当なものだろう。そして3歳年上の中学2年生の志を直接聞くことで、3年後の自分と重ね合わせて、将来の姿を描くことができたに違いない。異なる学年の間での「つながり」こそが、毎年の学びの「積み重ね」になり、子供たちに本物の力をつけさせていくのではないかと、そう感じる式であった。(後略)

自分の存在は、自分だけのものではないことがよく分かりますね。

